

2025

10/17

金

第1部 演題

若年がん等の患者さんへの
妊孕性温存療法

第2部 演題

乳がんはなぜ起こるの？ どう対策するの？
どう治すの？ ～原因から最新治療まで～

第1部 講師

産科・婦人科

教授 小野 政徳 医師



がん等の治療進歩により、若い世代でも治療を乗り越えて元気に過ごされる方が増えています。その一方で、抗がん剤や放射線の影響で、将来「子どもを持ちたい」と思ったときに妊娠が難しくなることがあります。そうした不安に寄り添うのが「妊孕性温存（将来の妊娠の可能性を残す治療）」です。

本講演では、生殖機能に対する治療の影響、思春期から大人へ向かうAYA世代（15～39歳）の特徴、そして精子・卵子・受精胚や卵巣組織を保存する方法など、代表的な妊孕性温存の選択肢をわかりやすく紹介します。さらに、公的な助成制度の活用についてもお話しし、「命を守る治療」と「将来の希望」を両立できるよう、一緒に考えていきたいと思います。

第2部 講師

乳腺科

助教 日馬 弘貴 医師



乳がんは日本で増え続けており、女性が最もかかりやすいがんの一つです。その背景には、食事や生活習慣の変化により女性ホルモンの影響を受ける期間が長くなっていることがあります。本講座では、乳がんがなぜ起こるのかをわかりやすく解説し、食生活や運動など日常生活でできる予防や再発防止の工夫を紹介します。また、乳がん治療は目まぐるしく変化しています。手術や放射線治療の負担を減らす工夫や、分子標的薬や免疫薬物複合体など新しい薬物療法の進歩についても触れます。原因から治療まで幅広く取り上げ、乳がんについての理解を深めていただければ幸いです。

日時 2025年10月17日(金) 開場 16:30 開演 17:00 ～ 閉演 18:30(予定)

会場 東京医科大学病院 本館9階 臨床講堂（最寄駅：丸ノ内線 西新宿駅）

申込 事前の申込は不要。当日は会場に直接お越しください。

※尚、座席数に限りがございます（360席）。満席の場合は入場をお断りする場合がございますので予めご了承ください。